文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間　会報 No.69　2015 年 1 月 25 日発行
川崎市幸区古市場 2-109　京浜協同劇団内　TEL 044-511-4951　郵便振替 00250-3-18369

京浜協同劇団公演「親の顔が見たい」

重い内容を正面から見据えて 好評

さる 11 月～ 12 月、京浜協同劇団の第 87 回公演「親の顔が見たい」が上演されました。中学校のいじめ問題を扱った内容で、重い内容でしたが、正面から見据えて問題提起をしていると好評でした。観劇された方と、出演された方に感想を寄せていただきました。

いじめの問題に鋭いメス

日本の在り方を問いかけている

安藤　孝一

会場に足を踏み入れるとぽっかりと穴が開いたように広がる舞台が目に飛び込んできました。

中学校の女生徒の「いじめ」問題に迫った作品です。いじめをした子どもの保護者が登場し校長、教頭、担任といじめがあったかどうか、緊迫した場面が展開されていきます。

いじめの加害者、被害者の生徒たちは登場しないが、発見された遺書をきっかけに、いじめの実態が次第に明らかになっていくのです。

いじめをしたと言われる子どもの親たちは、だれもが「うちの子に限っては」と、いじめへの関与を否定します。その一つひとつの緊迫したやり取りの中に、それぞれの人間の生き様がうかがわれると同時に、これまで、自分の子どもにどのようにかかわってきたか

有名私立中でいじめ自殺事件が。関わったとみられる子どもの親が集められ
（写真©：長坂クニヒロ　以下同）

が見ているものに容易に想像でき、我がことのように迫ってくるのです。

今、子どもをめぐる状況は、競争社会、格差社会の中で「いじめ」という形であらわれてきています。

加害者の子どもも、被害者の子どもも悩んでいます。そして、自らのいのちを絶ってしまったりそこまで至らなくても、心に大きな傷を負ってしまうのです。

本来、子どもたちは友だち同士が切磋琢磨しながら成長していくものだと思います。

この成長の源を押しつぶして行く異常な社会を鋭く凝視していじめの本質に迫ろうとするこの作品は、私たちに多くの問題を提起しています。

教師たちは、子どもたちの現実に目をそむけずこの

自殺した子からの手紙が

難問と立ち向かっています。

作者の畑澤聖悟氏は、パンフレットの中で次のように語っています。

「もし、君がいじめられて悩んでいたら相談してほしい。私は相談してくれたら嬉しいが、もしそれが嫌ならほかの誰でもいい。悩みを打ち明けてほしい。もし、相談することができず苦しさに耐えることができ

手紙にある名前は何を意味しているか

なくてもひとつだけ約束して欲しい。死ぬな。(以下略)」と。

一人ひとりに目が行き届くような教育環境、親たちが子どもたちと家族だんらんができる働く条件を整え、社会全体が生きることに希望がもて、子どもたちが大切にされる環境を保障することが何としても大切です。

派遣労働でいつ首になるかわからない労働条件や、人をもののように扱うこんな社会をただしていくことが大切です。

現代の難しくシビアなテーマに現場の教師でなければ書けない作品をとりあげた畑澤さんと、体当たりの演技をされた京浜協同劇団のみなさんに拍手を送りたい。そして、この作品を多くの人たちに広めいじめのない社会を実現したい。この作品は教育のみならず、日本の在り方そのものを問いかけているのです。

(川崎市退職教職員の会)

これからも劇団をサポートしていきたい

渡辺　そのこ

今回の京浜協同劇団の公演は、ここ最近の芝居と違った。

本当は、今考えなくてはいけないけど、できれば直視したくない問題を、観客にストレートに突き刺してきた。

今回は、「そうそう、いるいる、こんな人、こんな自分」と思える、かなり日常的で身近なテーマだった。

劇団創立 55 周年、「今、自分達がやりたい芝居は何か」を探しているように思った。

わたしが、何かしたくて劇団の稽古場を覗いたのが、32 年前。ちょうど「グスコーブドリの伝記」本番直前をひかえた頃だった。

稽古場でゲネプロを見学していた。ちょっとでも、音をたてたら何かが飛んで来そうな雰囲気。居場所に困っていると、一つ椅子が空いていたので座って稽古を見ていた。突然、頭をポコッと叩かれた。振り向くと佐藤張二さんが怖い顔で立っていた。そこは、舞台全体を見ることが出来るポジションで、舞台監督である張さんの席だった訳である。

稽古が終わり、バス停でバスを待っていると、一台の自転車が通りすぎる時「お疲れぇ」の声。張さんだった。

遺書は燃えてしまったので最初からなかったことに

ピーンと張った稽古場の空気、いい大人(年上の)たちが、仕事じゃないけど、かなり本気で芝居づくり。非日常的な芝居の世界、今まで見た事がない大人の本気に圧倒された。その先輩達に囲まれ、わたし達新人も濃い関わりや時間を共有できたと思う。

今回の芝居のように、身近な友達の事にも関心がなく、大人の世界でも自己中心的でまわりを気にし、本当の繋がりが持てにくい今日。

現在、劇団員数は以前に比べて、かなりスリムになった。先送り出来ない事柄が、足元にゴロゴロしているだろう。

それでも、この稽古場で、劇団員が集団としての魅力を発揮し観客に届けてほしい。わたしもどきが、劇団の芝居について、あーだこーだ言えません。わたしも自分の立ち位置を確認しつつ、劇団をサポートしていきたい。

(文化の仲間・会員)

「親の顔が見たい」に参加して

「関係で芝居ができてない」と指摘され

加藤　泰宏

僕は以前、落語研究会に所属していて、立って歩いて相手と会話する芝居の経験がありませんでした。今回の公演の中で、自分の中で獲得できた体感が大きく二つあります。

一つ目は、立ち振る舞いから演技をするということです。最初の稽古ではただ覚えた台詞を棒立ちで喋るだけでしたが、立ち位置や歩き方、観客に対する身体の向きや一歩詰め寄る歩幅に至るまで、まさに一挙手一投足を演出の内田さんを始めたくさんの先輩方に教えていただきました。新聞販売店の店長・遠藤は台本の中で、論点をすり替え責任逃れをする親たちに言い逃れようのない現実を突き付ける人物・役割です。し

バイト先の店長から突きつけられたものは

かし実際の自分とはかなり違う性分であるように感じたので、役柄の説得力を増すため、わざと誇張気味に横柄さや怒りを見せ付ける動きを多く取り入れました。

また、衣装も目立つ明るい色や派手な靴下にしたり、チェーンやピアスを用意したり、何より髪を金色に染めたのは初めての体験で、芝居をやっていなければ普段の自分では縁の無かった挑戦だと思います。見た目からなりきることも僕にとって新鮮な体験で、楽しんで役作りをすることができました。

二つ目は、関係で演じるということです。落語の経験は舞台演劇にもきっと通じると考え、僕は早い段階から自分が出る場面の台詞は相手の返しまで全て覚え、教えて頂いた立ち回りも合わせて身につけて、なるべく無意識でも場面が回るように練習しました。そうし

しだいに真相が明らかに……

ておけば自分の中に冷静な部分を残しておけますし、不意のミスも減らせます。

これがかなり安定してきた頃、稽古で自分の出番を通した時、演出や共演者の皆さんから「関係で芝居ができてない」という指摘を受けました。これは自分の中でとても衝撃的な発見でした。落語と同じ感覚で演じるということはつまり一人芝居ということです。相手に気持ちを投げかけることも、逆に相手の気持ちを受け取ることもできていません。夏の「空の村号」の稽古の時も、演出から同じ指摘を受けましたが、その時は指摘された内容は分かっても意味が理解できず、解決もできませんでした。「関係で演じる」「アンサンブル」「気持ちから演技をする」言葉は違えど今まで聞いたこれらの言葉がつまり舞台演劇の肝要であり、今までの自分に足りないものでした。今回の稽古で意識的に一人芝居を演じてしまったが為に、逆に舞台演劇での演技の関係性を少し掴めたように感じました。

落研出身の駆け出し役者という自分のアイデンティティについて、落語も舞台も上手くバランスを取って続けていくための最初の指針みたいなものを確かに得られた公演になったと思います。　（劇団員）

カーテンコール

2 年ぶりにお正月お楽しみ会

50 人以上が集まり、楽しみました

文化の仲間世話人　**二村　柊子**

寒中お見舞い申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。

まずは初仕事、1 月 12 日（月）快晴。お正月お楽しみ会を開催しました。2 年ぶり、8 回目を迎え、出し物もユニーク。川内先生の心意気が感じられるジュ

ジュニアダンス

ニア・ダンス（7 名）から開幕、紙芝居、子ども腹話術、かわいいおばさんピエロが風船をたちまちいろんな物にしてしまう“バルーン”、そして落語と進行。

おなじみ、城谷さんとゴローちゃんの息の合った司会でプログラムは進み、初登場の落語（劇団員の加藤さん）に小さな方たちも、びっくりするほど聞き耳を

紙芝居

立てていました。

寒い休日、子ども 24 人、大人 33 人、昼食を済ませ、三々五々と集まってきました。――あそこに行

子ども腹話術

けば、何か楽しいことがあるよ――開幕前の工夫が必要なようです。そして、大人も子どももいっしょになって、“わなげ”や“バルーン”のような遊びに夢中になる。「遊び」を大切にしたいものです。

バルーン（風船遊び）

9 回目、またやりましょう。

皆様のご協力に文化の仲間一同、心から感謝いたします。

落語（劇団新人の加藤さん）

最後は輪投げで大盛り上がり

2014 年 10 月 26 日　西海亭移転 10 周年記念会

劇団の活動を陰で支えながら

文化の仲間の会員の須田和美さん、セツ子さんは、中華料理店「西海亭」を経営しています。1990 年の京浜協同劇団の「麦の穂のように（はだしのゲン）」公演以来、劇団の公演に市民参加の出演をしたり、打ち上げの料理を担当するなど、様々な形で劇団の活動を支えてきました。

長らく横浜市港北区の日吉でお店を開いていましたが、2004 年 9 月に、川崎駅西口近くのハッピーロードに移転しました。それから 10 年になる去る 10 月

文化の仲間世話人の佐藤さんの司会で

劇団員や地域の人も参加

夫妻の労をねぎらい記念品を

26 日に、移転 10 周年を記念するパーティが西海亭で開かれました。

この日、文化の仲間の世話人・会員ばかりでなく、劇団員や地域の人たちも集まり、にぎやかなパーティとなりました。

文化の仲間からご夫妻の労をねぎらい記念の品を贈りました。

城谷護さんの「川崎市文化賞」受賞を祝う会が開催されました

文化の仲間世話人　**山木　健介**

会報の前号でもお伝えしましたが、劇団の城谷護さんが、2014 年度の「川崎市文化賞」を受賞しました。受賞の賞状に「あなたは長年本市の市民演劇を牽引し演劇文化の発展に努められるとともに全国各地の被災地に赴き腹話術で被災者に笑顔を届け続けてこられました。ここにその功績をたたえ文化賞を贈呈いたします」とあります。「演劇文化の発展に努め」ということは、劇団の前代表である城谷さんの受賞は、城谷さん個人だけでなく劇団や演劇に関わっている人たちに対する評価だと思います。

文化賞受賞を祝う会を、2015 年 1 月 10 日（土）にエポック中原で行ないました。あいさつされた方たちもユーモアあふれるあいさつをされ、こども腹話術の余興などもあり終始なごやかな祝う会でした。

京浜協同劇団と私（9）

やっぱり自分の文化は自覚しといた方がいい

安達　元彦

せっかく文化の仲間の会報だし、末席をけがしている身として、今回は文化論を。

文化とは〈やはり野に置け蓮華草〉のひとことにつきる（常識的な意味「適材適所」でなく、文字通りに解釈してほしい）。文化とは人知れず静かに自存自尊しているものだと思います。「すぐれた文化」という言い方キライです。じゃぁ「劣った文化」があるのですか？　すると「劣った」とされる文化で生きている人は劣った人ということになるのですか？

文化は比較の埒外だと思う。文化には理由がない。「ナゼ日本語をしゃべる？」と訊かれても答えに困る。「それしかしゃべれないから」。好きでしゃべっているわけじゃない。いつどうしておぼえたかもわからない。ダメだと言われてもどうしようもない。昔「日本語はダメな言語だからフランス語を国語に」と提案した文豪がいたらしいけど……。文化は、言ってみれば体みたいなもので、イヤだからといって脱ぎ棄てたり着替えたりできない。また、地域限定期間限定モノ。決して普遍的でも不変的でもない。そして、その文化に生きている者にとっては、あまりにも自然すぎて普段はその存在をほとんど自覚できない。だが、何か外部の力によってその存在が脅かされるとき、人々は自分の生存の根底が崩される不安にさいなまれる。言語を奪うことは肉体の殺傷と同じくらいの大罪。フランス革命で、時の政府はブルジョワ民族国家確立上の国語政策として、ブルトン語ほか数種の少数言語を撲滅した。日本もかつて植民地に日本語を押し付けている。国内でもアイヌ語の抹殺がある。こういう強権的暴力的な力は本来文化にはない。文化とは元来無力なもの。それが強圧的な力を持つように見えるとしたら、それは文化の力ではなくて、文化が文明に利用されるとき。文明の最たるものは、政治力・経済力・軍事力。だが、文明に利用された文化は、文化としては堕落と言うべきだ。

下唇に穴を穿けて木片を通したのが（ピアスだね）唯一の着衣という裸族がいる。その木片がなにかのはずみで外れると身を捩って羞恥に身もだえる。我々からすると「もっと他に隠すところあるだろう」だが……。これが文化。かれらから見ると我々の服装こそとんでもなく破廉恥なのかも知れない。異文化交流は〈目クソ鼻クソ笑う〉から始まるんだと思う。だって、異文化はヨソモノからみたらたいてい不可解でオッカシイんだもん。だたしこの時互いはあくまで対等でなければならない。上から目線はいけません。そのためには、決して国家や組織や集団を背負わないこと、互いに素裸の一個人として向き合うこと。

ある地域の文化的業績などが世界的（または国家的）権威筋から表彰されたりしたとき、狂喜する地元の人々がいる。あれを見るのはなんだかモノ悲しい。本来、文化はそんなゴホウビ一切必要としないはずのものなんだ。この人々の様子の裏には、それまで彼らが大切にしてきたものが長くなおざりに冷たく扱われてきたことへの悔し涙の歴史があるのではないか？　それは、時には政府の悪政であり、時には廻りの人たちの冷ややかな目であったりするのだろう（ちょっと思い入れすぎかな？）。

やっぱり自分の文化は自覚しといた方がいいんだろうなぁ。ことさらフンゾリ返ることも、恥じ入ることもなく……。そして、その自覚を持ちながら、異文化同士ごく自然に認めあうという関係になっていけばいいんだろうなぁ。

次が最終回です。それで、長いご愛読（かナ？）へのちょっと早目のお礼を。あとの一回は、懐かしい劇団員たちのエピソードをおまけに付け足したいと思ってます。ありがとうございました。

1998 年（写真：© 長坂クニヒロ）

川崎が生んだ詩人、佐藤惣之助を描く

市民劇「華（はな）やかな散歩」

京浜協同劇団　城谷　護

川崎郷土・市民劇の第５弾は、川崎が生んだ詩人、佐藤惣之助を描いた「華やかな散歩」に決まりました。2015 年５月に上演されます。作者は第１作から書き続けている児童演劇作家の小川信夫さん、演出は劇団前進座の鈴木龍男さん、制作は関昭三さんです。

出演者は京浜協同劇団員をはじめ市内の劇団、公募に応じてくれた市民。スタッフは主にプロの力を借りての公演となります。

京浜協同劇団は、演出助手に内田勉、制作助手に城谷護、実行委員に藤井康雄が入るほか、ほぼ全員が出演する予定で、劇団を挙げての取り組みとなります。

「湖畔の宿」などの作詞も

佐藤惣之助は、1890 年（明治 23 年）に東海道川崎宿（しゅく）の名家に生まれました。現在の川崎区砂子（いさご）通り、川崎信用金庫本店のある所が生家です。俳句、詩、劇作、歌謡曲の作詞など多彩な才能を発揮、広く知られるようになりました。

「赤城の子守唄」、「阪神タイガースの応援歌（六甲おろし）」、「人生の並木路」「湖畔の宿」など有名な歌謡曲の作詞者でもあり、主な作品だけでも 30 数曲あります。古賀政男、古関裕而、服部良一など名だたる作曲者と組んだのです。

戦争への道をひた走る時代の中で

こうした才能に目をつけた軍部は惣之助を戦地に赴かせ戦意高揚の唄を作るよう強制します。惣之助の苦悩と葛藤が始まります。ドラマはその苦悩と葛藤を描きつつ、もう一方で２人の女性との愛をからませます。妻の花枝は惣之助の創作活動や生計を献身的に支えますが、病死してしまいます。その後、親交のあった萩原朔太郎の妹、萩原愛子と再婚するのです。まさに愛と葛藤のドラマです。

惣之助は波乱の人生を 51 歳という若さで閉じますが、戦争という時代の中で苦悩する花形作詞家、詩人の姿を、作者は今日の眼で捉えて私たちに見せてくれるのです。

第５回　川崎郷土・市民劇

華やかな散歩

川崎が生んだ詩人――佐藤惣之助――愛と葛藤のドラマ

佐藤惣之助（市民劇チラシより。出典は「佐藤惣之助生誕 120 年記念展」パンフレット）

作　小川信夫　演出　鈴木龍男（前進座）

日程・会場

2015 年５月８日（金）午後７時　９日（土）午後２時　10 日（日）午後２時　多摩市民館

22 日（金）午後７時　23 日（土）午後２時　24 日（日）午後２時　川崎教育文化会館

前売料金　一般 2,500 円　障がい者・小学生から大学生 1,000 円　指定席 3,500 円

各当日券は 500 円増、指定席は２月１日から発売

主催　川崎郷土・市民劇場演実行委員会　共催　川崎市・川崎市教育委員会・川崎市文化財団

［お申込み・お問合せ］ 川崎文化財団内　TEL. 044-222-8821

◎文化の仲間通信◎

◆ 2015 年新春平和学校

日程　1 月 31 日（土）13:30 開会
会場　かながわ県民センター・2 階ホール
講演　「日本はこれからどこに行く」～集団的自衛権、日米同盟、憲法～
講師　半田滋さん（東京新聞論説・編集委員）
資料代　1,000 円
問合せ　神奈川県平和委員会　045-231-0301

◆川崎市民劇場第 324 回例会
前進座公演　舞踊 操り三番叟
芝浜の革財布

日程・会場
市民劇場なかはら　2 月 2 日（月）18:15
3 日（火）13:30　エポック中原
たま･あさお市民劇場　4 日（木）18:30　多摩市民館
さいわい市民劇場　7 日（土）14:00　幸市民館
原作　三遊亭円朝／脚色　平田兼三／出演　藤川矢之輔・山崎辰三郎　ほか
笑いのあとに、しみじみ涙、人情話の極めつき。
申込み･問合せ　たま･あさお市民劇場 044-911-6920
市民劇場なかはら　044-455-7950
さいわい市民劇場　044-244-7481

◆劇団埼芸　第 94 回公演
雪やこんこん―湯の花温泉物語

日程　2 月 21 日（土）・22 日（日）14:00 開演
会場　響の森　桶川市民ホール
入場料　一般 3000 円　65 歳以上 2500 円
中高生 1500 円　小学生以下無料
作　井上ひさし／演出　川村武夫／出演　朝比奈悦子・ただのれいこ・中山浩充・小澤六郎　ほか
問合せ　劇団埼芸　050-3479-0481
昭和 20 年代終わり、暮れも押し迫った 12 月中旬。湯の花温泉佐藤旅館は深い雪に包まれている。風に千切られでもしたように、途切れ途切れに「むらさき小唄」が聞こえてくる。…

◆市民劇「華やかな散歩」関連シンポジウム
「惣之助を語る」齋藤文夫・酒井靖惠・小川信夫
日程　2 月 22 日（日）午後 2 時～ 4 時　入場無料
会場　東海道川崎宿交流
問合せ　上演実行委員会　電話 044-211-2250

◆川崎太鼓仲間響　横浜公演
祭り 心ひびかせて～震災復興をめざして

日程　2 月 22 日（日）15:30 開演
会場　神奈川県立青少年センター
入場料　全席指定　一般 2000 円
小中高・障がい者 1000 円
第 1 部　里の祭り　海のうた（海の太鼓・荒馬踊り・金浦神楽・虎舞・七夕祭囃子　ほか）
第 2 部　打てや囃せ　心ひびかせ（Get Back・二足歩行・水口囃子・秩父屋台囃子　ほか）
問合せ　吉田 080-1038-9089
※ 1 月上旬で、チケットは売り切れました。

◆かわさき市民芸術祭
主催＝川崎市総合文化団体連絡会
共催＝川崎市、川崎市教育委員会
〇美術部門　2 月 17 日（火）～ 22 日（日）
アートガーデンかわさき（JR 川崎駅隣り）
入場無料
〇舞台部門　3 月 1 日（日）午後 1：30
多摩市民館ホール　入場無料
「旅路（たび）」をテーマに。長唄･三味線･詩吟･日舞･腹話術・他
★川崎文化会議からは、しろたにまもるとゴローちゃんの腹話術で参加します。
問合せ　川崎市総合文化団体連絡会事務局
044-210-0078

◆浅草・東洋館寄席（よせ）

日程　2 月 27 日（金）午後 0：00 ～ 4：30
〇 1:30 頃､しろたにまもるさんが腹話術で出演予定。
木戸銭　2,500 円のところ、しろたにさんから買えば 1,000 円。
申込み・問合せ　城谷　044-544-3737

◆きずな「第 9 回腹話術のつどい」

日程　3 月 15 日（日）
午前の部（主として子ども向け）10:30 ～ 12:30
午後の部（主として大人向け）13:30 ～ 16:30
会場　川崎市総合自治会館（武蔵小杉駅下車徒歩 7 分）
入場無料・予約制　200 名
申込み　腹話術の会★きずな（しろたにまもる）
電話＆ FAX　044-544-3737

●世話人会からのお願い

新年度の会費（2015 年分）の納入をお願いします。

■文化の仲間ギャラリー■　　小野寺 晃⑮